



愛知県における 野生鳥獣による農作物被害の状況（2021 年度）

2022 年 8 月

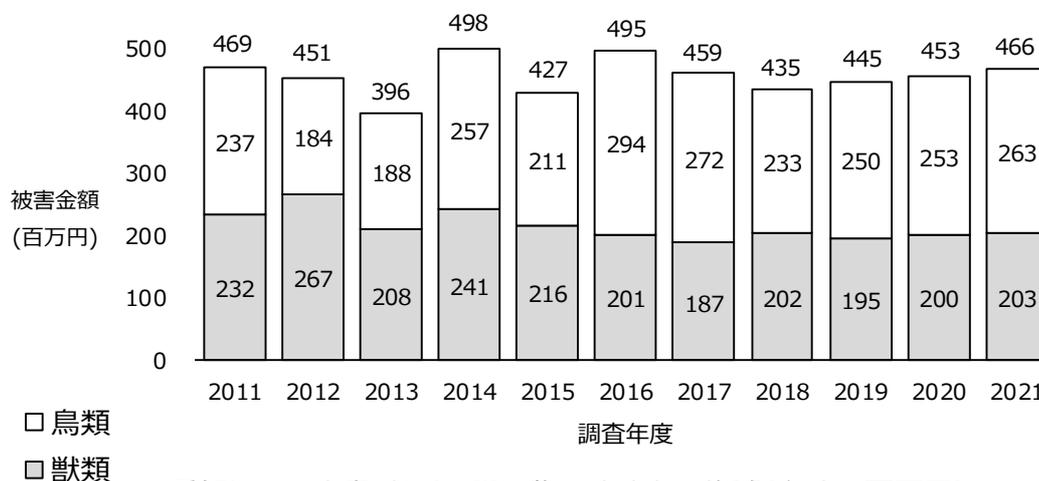
1 概況

(1) 2021 年度の被害状況

指標	単位	調査結果	前年比(%)
被害面積	ヘクタール	537	98.7
被害量	トン	2,512	100.0
被害金額	億円	4.66	102.7

- ・前年比で被害面積は微減、被害金額は微増で、おおむね 2020 年度と同程度でした。
- ・2016～2020 年度の 5 か年の平均に対する 2021 年度の被害金額の比率は 101.8%でした。ほぼ横ばいが続いています。

(2) 被害金額の推移

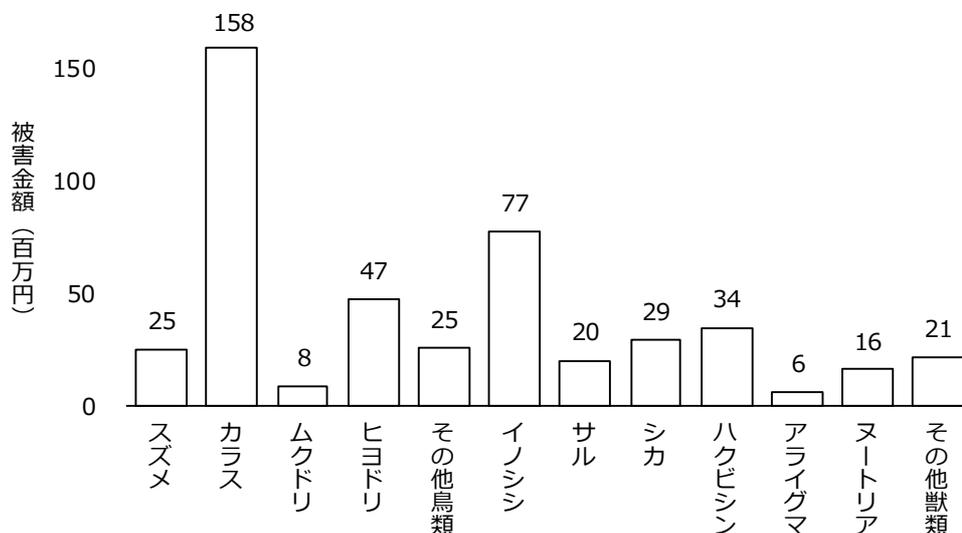


愛知県の野生鳥獣による農作物被害金額の推移(単位：百万円)

- ・愛知県内で鳥獣被害防止特措法に基づく総合対策が開始された 2011 年度以降、被害金額は 4 億 5 千万円前後で推移しています。
- ・2016 年度以降、鳥による被害金額が獣を上回っており、都道府県別でも常に上位にあります(2020 年度は全国第 2 位)。

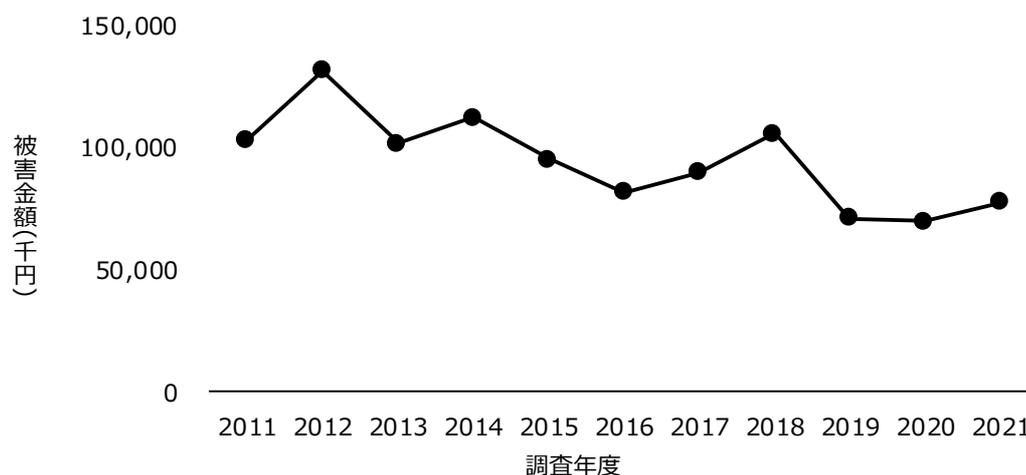


2 鳥獣種別の被害状況



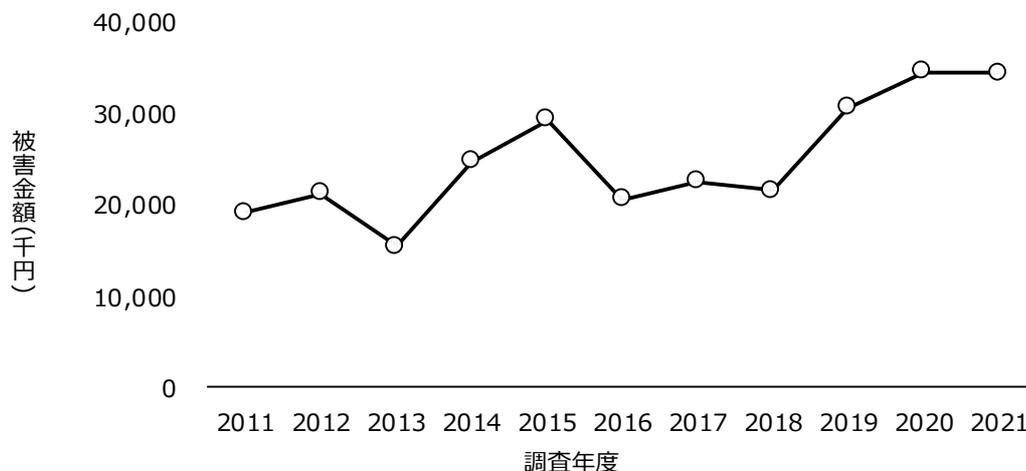
鳥獣種別の農作物被害金額（2021年度、単位：百万円）

- ・2021年度の鳥獣種別の被害金額は、カラスによるものが最大でした。獣類に限定すれば、イノシシによるものが最大でした。
- ・ヒヨドリ(第3位)、ハクビシン(第4位)の被害金額が相対的に大きいことが特徴で、園芸作物の生産が盛んであるためだと考えられます。



イノシシによる農作物被害金額の推移(単位：千円)

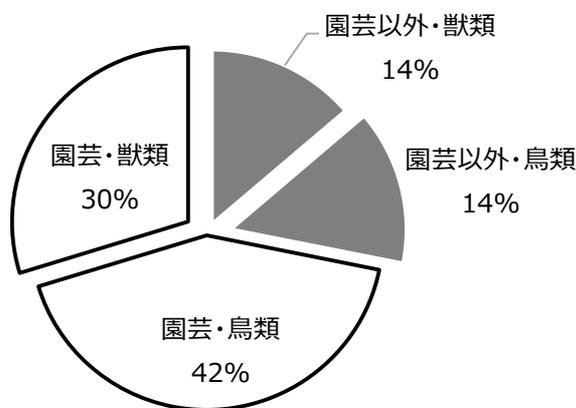
- ・イノシシ被害は、2018～2019年度に大きく減少、2020年度は微減、2021年度は微増となりました。生息頭数の増減傾向が変化している可能性があり、今後の動向に注意が必要です。



ハクビシンによる農作物被害金額の推移(単位：千円)

- ・ ハクビシンによる被害金額が増加傾向です。
- ・ 鳥獣種別の被害金額もカラス、イノシシ、ヒヨドリに次ぐ値となりました。

3 農作物区分別の被害状況

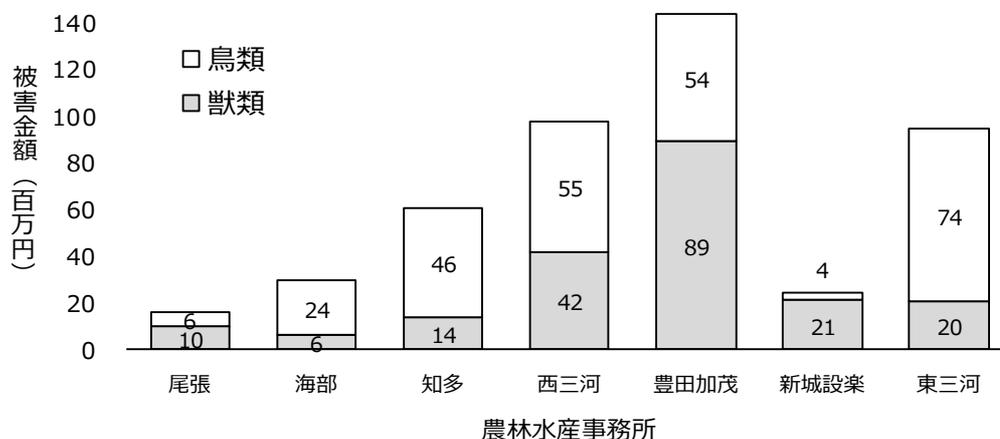


鳥類・獣類、園芸・園芸以外の被害金額の比率
(2021年度)

- ・ 農作物区分別の2021年度被害金額は、野菜が最も多く、次いで果樹、稲の順となりました。
- ・ 園芸作物の被害金額が大きく全体の72%、園芸作物の鳥害が全体の42%を占めました。同様の傾向は被害状況調査の開始時点(2001年度)から続いており、愛知県の農業生産の特徴を反映していると考えられます。

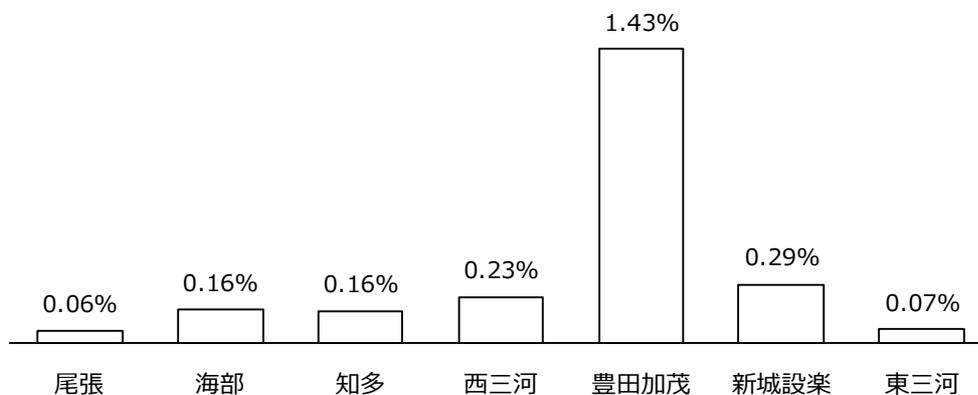


4 地域別の被害状況



地域別の野生鳥獣による農作物被害金額
(2021年度、単位：百万円)

- ・農林水産事務所管内別の2021年度被害金額は、昨年度までと同様に豊田加茂が最も多く、次いで西三河、東三河の順となりました。



地域別の野生鳥獣による農作物被害率
(2020年度、被害金額/産出額)

- ・農業産出額が大きい地域ほど被害金額も大きい傾向ですが、産出額と被害金額は直線的な相関関係を示すわけではありません。被害率(被害金額/産出額、2020年度)に着目すると、豊田加茂に次いで新城設楽が高い値となりました。
- ・市町村別の被害率(2020年度)は、豊根村が最大(13.24%)、次いで豊田市(1.58%)、東栄町(1.08%)でした。愛知県全体では0.16%でした。